

平成 30 年度 物療校友会学術部放射線部会 一泊研修会

日時 : 平成 30 年 11 月 3 日 (土) 16:00 ~ 4 日 (日) 12:00

場所 : サンライズ淡路 (兵庫県南あわじ市)

報告者 : 大阪警察病院 泉 夏彦

《 プログラム 》

『 1 日目 』

- 教育講演① 『医療従事者の被ばくを考える』
産業医科大学病院 永元 啓介 先生
- 特別講演 『CT の画像評価についてお伝えしたいこと』
大阪急性期・総合医療センター 三浦 洋平 先生

『 2 日目 』

- 基礎講演① 『頭部領域の読影の基礎』
姫路医療センター 喜田 真一郎 先生
- 一般演題 『血栓回収療法における希釈造影 CBCT 撮影を用いた collateral flow による閉塞部遠位血管の描出』
大阪警察病院 泉 夏彦 先生
- 一般演題 『Adamkiewicz 動脈の描出能に対する Model Based Iterative Reconstruction の有用性』
京都大学医学部附属病院 北澤 絹子 先生
- ディスカッション 『血栓回収時における技師の役割について』
多根総合病院 夏日 勇人 先生
- 基礎講演② 『胸部立位 X 線撮影から学ぶ一般撮影の基礎』
大阪急性期・総合医療センター 宮原 哲也 先生
- 教育講演② 『ノンテクニカルスキルについで考えよう』
近畿大学医学部附属病院 西 環 先生

《 報告事項 》

平素よりお世話になっております。物療校友会学術部放射線部会勉強会 幹事の泉夏彦です。この度、平成 30 年度物療校友会学術部放射線部会 1 泊研修会を開催致しましたので、ご報告させていただきます。

今回の 1 泊研修では、経験豊かでご施設でも第一線でご活躍されている先輩技師から【教育講演】として非常に身になるお話しをしていただき、【基礎講演】では、これからさらに成長を期待される若手技師に土台となる基盤を作っていただきました。また、【一般演題/ディスカッション】では学会発表や各施設で疑問に感じている内容について適切なアドバイスをいただきました。

何より今回の研修会では大阪物療専門学校並びに大阪物療大学出身のみならず、熊本大学、京都医療科学大学など他校を卒業された若手技師も参加され、[学校]という枠組みを超え、お互いの情報や意見交換が活発に行われ、非常に有意義な時間を過ごせました。

以下、それぞれのプログラム内容についてご報告させていただきます。

『 1 日目 』

教育講演① 産業医科大学病院：永元 啓介 先生

医療従事者の被ばくについて、特に眼の水晶体の放射線影響と等価線量限度の見直しについてお話しいただきました。放射線の遷延性の影響として白内障があるということから、実際にカテーテル検査を行っている医師の体験談などを交え、医療機関において放射線を扱うことの重大さをお話しいただきました。また、新しい取り組みとして[Wi-Fi に反応して音を出す]というスマートフォンアプリの開発に携わり、スマートフォンをサーベイメーターの代わりに研究室のゼミ生に使用してもらい、実際に放射性物質の取り扱いについて模擬訓練を行っている様子を動画でご説明していただきました。

特別講演 大阪急性期・総合医療センター：三浦 洋平 先生

実際にご自身が執筆いただいた論文や学会発表スライドをお見せいただき、今後 研究発表を行う若手技師へCTの画像評価を中心に取決めや注意点をご教授いただきました。私自身も知らなかったことが多く、今後の学会発表への参考になりました。

『 2 日目 』

基礎講演① 姫路医療センター：喜田 真一郎 先生

頭部領域の読影の基礎ということで、主に髄膜と頭蓋骨の解剖を中心に講演いただきました。髄膜のうち特に硬膜について硬膜外出血、硬膜下出血の構造の違いによる画像としての見え方、3層構造の信号値の違いによりCTとMRI (T1)の画像を見分ける、など基礎ではありますが内容が濃く とても勉強になるお話しでした。

一般演題 大阪警察病院：泉 夏彦

頭部血管造影について、通常の動脈相撮影では一見 脳梗塞かと思われる症例も、閉塞部の遠位側血管の描出を図る撮影を行うことにより、梗塞領域が側副血行路によりまかなわれていることが判断でき、時間未発症でも積極的に血栓回収を行う運びへと繋がる、という撮影・画像処理の工夫についてお話しさせていただきました。

一般演題 京都大学医学部附属病院：北澤 絹子 先生

Adamkiewicz 動脈の描出は難しい課題であり、ステントグラフト等の処置においてAdamkiewicz 動脈の描出が事前にしっかりと造影 CT で行うことができれば手術の際にとっても有用です。私の病院においては、ピッチを細かくし、造影剤をゆっくりと時間をかけ、線量を多くして撮影を行っていますが、北澤先生は閏数及びパラメーターの調整により血管の明瞭な描出と線量を抑えることも可能だとお話されました。個人的に扱っている装置に違いはありますが、改めて追求し調べようと思いました。

ディスカッション 多根総合病院：夏日 勇人 先生

多根総合病院では頭部血管造影において神経内科医が手技をされるということで、専属モダリティの放射線技師がいないとのことでした。夏日先生自身が専属モダリティの技師を目指すべく、自施設と他施設の取り組み（撮影、ポジショニング、物品出しなど）についてディスカッション形式で比較をしました。実際に医師、看護師、コメディカルがどのような連携をされているか、各々の施設にてプラスになる箇所をフィードバックするととてもいい機会となりました。

基礎講演② 大阪急性期・総合医療センター：宮原 哲也 先生

胸部立位 X 線撮影という放射線技師にとって 1 番の基本となる仕事についてお話しいただきました。基本ではありますが、一般撮影において 1 番難しいとも言われている撮影において、撮影の方法(ポジショニング、撮影条件など)、読影及び解剖、再撮にならないための事前確認など若手技師のみならず改めて勉強と意識づけが行われました。

教育講演② 近畿大学医学部附属病院：西 環 先生

ノンテクニカルスキルについて、放射線技師という枠組ではなく一社会人としてコミュニケーションの在り方、取り方についてユニークなゲームを交えながらお話しいただきました。別施設であまりお話しをする機会がなかった技師とも今回の講演を機に意見や情報交換を行うことができ、充実した時間でした。



集 合 写 真

教育講演

2 日間という短い時間ではありましたが、プログラム内容も非常にバラエティに富んだお話しばかりで、有意義な研修会でした。

次回の勉強会の詳細は決まり次第、物療校友会ホームページに更新致しますのでご確認お願いします。今後もたくさんのご参加をお待ちしております。

作成日 : 平成 30 年 11 月 7 日